

ごあいさつ

『にいくら』23号をお届けいたします。

本号には、報告と論考がそれぞれ一篇ずつ掲載されています。矢島新先生（文学部教授）による「故宮博物院収蔵の花蹊作品」と清水久夫氏（本学非常勤講師）による「『土方久功日記』と中島敦についての回想文」です。

前者は、2017年3月に台湾を訪れた矢島先生を含む本学の教員3名が、故宮博物院収蔵の花蹊の画帖《故画 清花蹊女史冊頁》の調査を行った際の報告です。詳しくは本文をお読みいただきたいと思いますが、タイトルにある「故画」とは、皇帝への献上品としてかつて北京の故宮に収蔵されていたものをさす言葉で、花蹊は外務省の求めに応じ制作したようです。ご多忙の中、貴重な文章をお寄せいただいたことに感謝申し上げます。

後者は、民族学者・土方久功が昭和14（1939）年にパラオで出会った小説家・中島敦について書いた6つの回想文を取り上げ、それがどのような文脈で書かれたものかを初めて論じた、たいへん意義深い内容となっています。清水氏は『土方久功伝』（東宣出版、2016年）の著者でもあり、永年にわたるご研究の成果の一端を明らかにしていただいたことに心より御礼申し上げます。

平成29年度の資料館活動報告は、本誌に掲載されているとおりですが、博物館の根幹をなすというべき資料の調査研究も、スタッフの地道な努力によって日々着実に進展していることを特筆しておきたいと思います。

また学芸員課程の記録については「29年度博物館実習について」をご高覧いただければと存じます。

最後になりましたが、本誌完成のためにご尽力いただいた関係各位にあらためて御礼を申しあげたいと存じます。

平成30年3月吉日

跡見学園女子大学花蹊記念資料館
跡見学園女子大学学芸員課程